

(記入例・活動の立ち上げ)

(様式第1号の2)

活動計画書

(活動を新規に立ち上げる場合)

1 助成を必要とする団体等

1) 概要

| | | | |
|---------|------------------------------|-------|--------------|
| ふりがな | 〇〇ちくごじょのかい | | |
| 団体等名称 | 〇〇地区互助の会 | | |
| ふりがな | ふくし じろう | ふりがな | ふくし たろう |
| 申請担当者氏名 | 福祉 次郎 | 代表者氏名 | 福祉 太郎 |
| 所在地 | 〒690-0011 △△町大字◇◇123-4 | | |
| TEL | 0123-45-×××× | FAX | 0123-67-**** |
| E-mail | chiiki@fukushi-shimane.or.jp | | |

2) 要綱第3条に定める別表第1「助成対象団体の基準」の確認

| | |
|--|--|
| ◇法人格の有無 ※いずれかに○を記入 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> なし | ・ <input type="checkbox"/> あり ※法人の種別 () |
| ◇団体の組織について ※組織構成を図示してください | |
| | |
| ◇団体における活動の担い手について | |
| 活動の担い手の人数 | 10人 ←のうち、65歳以上の方の人数 6人 |

2 助成を必要とする活動の内容

1) 要綱第3条に定める別表第2「助成対象活動」の確認

| | |
|-----------------------------------|--|
| ◇活動の種別 ※申請する活動の内容が含まれると考える区分に○を記入 | |
| ○ | ① 日常の暮らしの中での支え合いに関する活動 例) 地域互助組織による困りごと支援 など |
| | ② 居場所をはじめとする多様な場づくりに関する活動 例) 子ども食堂等の地域食堂の運営、地域サロンや世代間交流の拠点の運営 など |
| | ③ 身近な地域での見守り等に関する活動 例) 障がいがある方や引きこもりの方等に地域の活動への参加を促す取り組み、独居世帯等に対する配食活動 など |
| | ④ 上記①～③には含まれないが、要綱第2条の目的を達成すると考える活動 |

2) 活動の内容

| | |
|--------------------------|---|
| ◇計画している活動内容 ※全ての項目を記入 | |
| 活動名 | 〇〇地区有償互助活動 |
| ・活動の内容 | 〇〇地区では、高齢化により買い物や草刈りなどがしづらくなる住民が増えてきた。そこで、地区の中での助け合いによりこれらの困りごとに対応する仕組みを作り、引き続き安心して暮らしていけるような地域にしていきたい。 |
| ・活動を展開する地域の範囲 | 〇〇地区 |
| ・活動の対象（受け手）となる住民等の属性や人数等 | 人口約 200 人（100 世帯）。高齢化率 45%。 |
| ・活動の頻度（回数等） | お願い会員の依頼に基づき、週に 2 回程度、任せて会員が対応する。 |

3) 助成期間終了後の展望

| | |
|---|--|
| ①概ね5年後に実現したい地域の姿 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の住民が年を重ねても、同じところで安心して暮らしていける環境をつくる。 ・互助活動を通じて、お互いがお互いを見守ることができる仕組みをつくり、地区の中で孤独になる方が出ないような環境をつくる。 | |
| ②①を実現するための具体的な目標と実現に向けた取り組み内容 | |
| 2022 年度末時点 (1 年後) | < 目標 > |
| | ・ お願い会員を 50 名程度、任せて会員を 15 名程度登録する。 |
| 2024 年度末時点 (3 年後) | < 実現に向けた取り組み内容 > |
| | ・ 回覧板や地域のイベントなどで、団体の活動内容を周知し、地区住民への理解を広げる。 |
| 2024 年度末時点 (3 年後) | < 目標 > |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ お願い会員を 80 名程度、任せて会員を 20 名程度登録する。 ・ 互助活動の会員に限らず、また高齢者だけでなく、子育て世代も孤立しないよう、地域全体で見守りができる仕組みを立ち上げる。 |
| 2024 年度末時点 (3 年後) | < 実現に向けた取り組み内容 > |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 回覧板や地域のイベントなどで、団体の活動内容を周知し、地区住民への理解を広げる。 ・ 子育て世代にも周知をするため、学校等と連携し、子どもを対象にしたイベントを行うなど、団体の関係者の顔が見える活動を行う。 |
| ③①を踏まえた、 今後5年間の活動継続 に向けた課題とその 解決の方向性 (あれば記入) | < 課題 > |
| | ・ 互助活動を継続していくための、団体の運営費や担い手の確保。 |
| ③①を踏まえた、 今後5年間の活動継続 に向けた課題とその 解決の方向性 (あれば記入) | < 解決の方向性 > |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ お願い会員から、活動1時間あたり500円の利用料をいただく他、自治会からの補助も検討する。 ・ 活動の担い手に対しては活動1時間あたり300円の協力金を支払い、担い手の負担感の軽減を図る。 |